

児童文学好きのみなさんのための「ライトノベル」事始

榎本 秋

ライトノベル、という言葉聞いたことはあるだろうか。略称は「ラノベ」である。

マンガ、アニメ、ゲームといったオタク系フィクションに造詣の深い人なら「当たり前のことを言うなよ」と思うだろう。

書店に足繁く通う人なら、マンガコーナーの近くあたりに棚があって、カラフルかつキャッチーなイラストで表紙を飾った文庫本がずらっと並んでいるのを見たことがあるかもしれない。あれがライトノベルだ。

あるいは、新聞や雑誌の特集などで「今、ライトノベルが熱い！」のような記事を読んだことがある、などという人がいてもおかしくはない。

ただ、このライトノベルという存在はなかなか「ぬえ」的なところがあって、その全体像を掴むのは難しい。そこで、本稿では一からわかりやすくライトノベルを紹介したいと思う。

まず、ごくごく基本的なところから。ライトノベルは小説の一ジャンルである。

小説のジャンルは大きく分けて二つのポイントで分類されることが多い。一つは「作中に登場する要素」で分けられるパターンで、「SF」「ファンタジー」「ミステリー」「青春」などがそれだ。もう一つはメインの読者ターゲットで分けられるパターンで、「児童文学」や、あるいはライトノベルとも近似的な存在である「ジュブナイル」「少女小説」などが典型例である。

ではライトノベルは……というと、これがちょっと難しい。何をもってライトノベルとするか、という定義が曖昧だからだ。

結論から語ってしまうと、私は、後者の「メインの読者ターゲット」を「中学生・高校生」として捉えた上で、そこに様々な事情がついてくるのがライトノベルだと考えている。しかし、これをわかってもらうためには、ライトノ